Ⅰ　日常活動の充実

（1）はじめに

私達が学級経営といい学年経営というときともすれば目新しいことに目を奪われ平凡な日常活動がおろそかになりがちなことは経験をつめばつむほど多くなるような傾向があるように思える。自分自身を振り返ってそうである。初めて担任することになったときの震えるような緊張とやる気と感動が「経験」の名のもとになおざりにされていることは多い。生徒との本音の語り合いや感情の衝突、保護者との連携に頭を痛めたことは既に過去の事となっていることが多いのだ。経験は教師として重要な要素である。それを問題にしないのは不遜に過ぎる。しかし、、経験のみを振りかざすのは滑稽であろう。

私達はもう一度基本的なことを洗い直していきたいと思った。その事は同時に生徒が今何を考え、望み、保護者はどんな思いをもっているかを一人の人間として考えていき、それを教育の営みの中に昇華していくことにつながる。

考える場は学校であり教室である。

朝登校してから下校するまでの間の生徒の動きや考えをつかみ、中にはいることを考えることがスタートになるべきだろう。

一日は8:15から始まる。朝の自習、短学活、授業、給食と昼休み、授業、清掃、学活と続き4:00前後に終了し、部活動に参加しているものはそれぞれの部活動へと急ぐことになる。私達が担任としてあるいは副担任として授業以外にかかわることのできる時間はそう多くはない。その時間をどう活用するか。そこでごくあたり前に行われている日常の生徒との接触や指導こそがすべての教育活動の基本になるものである。教室へ行く時間を5分早くすること、「あゆみ」の返事を一行多く書くこと、10人の生徒よりも11人の生徒と言葉を交わすこと。そんなわずかな時間の労を惜しまないことが日々の充実につながっていくし、生徒と私達をつなぐ大きな力になると思っている。家庭との連携にしても、同和問題学習にしてもそれらの活動があってこそ初めて成り立つものである。

私達は以上の点を確認することからスタートした。すべての面を一度にカバーしていくことは簡単ではない。とりあえずつぎに述べるようなことについては共通理解を図り学年全体として進め、他の部分－清掃、給食指導など－についてはそれぞれ担任が創意工夫して当たることとした。

（２）学級道徳指導計画案

学級の道徳指導計画案は学校として作成したものであるがそのまま学級経営案に通じるものである。それぞれの担任の願いや思いが込められた一年間の計画である。

２年Ａ組　道徳指導計画

観　　点	計　画　の　内　容
学級における生徒の道徳性の実態	○清掃・奉仕作業など自主的に取り組もうとする姿勢に欠ける。 ○班活動などお互いに協力している面もあるが，教師がいなければサボる等，自己中心的な姿も見られる。
学級における道徳教育の基本方針	○お互いに協力し合い，励まし合う学級を作る。 ○友の心の痛みを共感でき，連帯の絆に結ばれた学級集団を目指す。 ○基本的な生活習慣をきちんと身につけさせる。
各教科，特別活動における道徳教育の概要	○学校行事やクラブ活動等に積極的に参加させることにより，生徒一人一人がお互いに助け合ったり，協力したり，励まし合ったりしながら豊かな人間関係を作り上げていく。 ○各教科においてそれぞれの特性を生かしながら道徳性を養う。
生徒指導にかかわる道徳教育の観点	○生徒の人間的なふれ合いを大切にする。特に，あゆみ・個人面談・常時指導の中で。 ○教師自身の生き方にかかわる話など，機会あるごとに話す。
学級生活における豊かな体験の計画	○２学期に実施される修学旅行を生徒一人一人のかけがえのない思い出とするための取り組みを充実させていく。 ○板中祭，校内陸上大会等に学級として練習計画を立て，団結して取り組む。
学級における教育環境の整備計画	○生徒作品を掲示し，友達の良さを認め合う。 ○花のある明るい学級作りをする。　○花のある ○学級目標を土台にすえた学級旗を生徒全員の考えの中から作成し，教室に一年間掲示することにより団結を図る。
基本的な生活習慣に関する指導計画	○掃除を心を入れてすることに力を入れる。 ○時間を大切にする心を育てる。 ○挨拶・言葉づかいをきちんとさせる。
他の学級・学年・学校・及び家庭，地域社会との連携にかかわる内容と報告	○教師間の連絡を密にし，常に情報交換をする。 ○学年通信「ねんりん」を通して，学年・学級における教育活動の充実と家庭の連携を深める。 ○地域の奉仕活動や懇談会に積極的に参加する。

2年B組　道徳指導計画

観点	計画の内容
学級における生徒の道徳性の実態	○今自分が何をしなければならないかをしっかりと自覚した生徒と，自分というものをなかなかとらえることができず，何気なく一日一日を過ごしている生徒等，その実態はいろいろである。 ○人の不幸を放置しておけない思いやりの心に溢れる生徒がいる反面，清掃活動や給食の準備等を見ていなければサボろうとする自己中心的な生徒の姿も見られる。
学級における道徳教育の基本方針	○一人の仲間の幸せをみんなでより大きなものとし，一人の仲間の悲しみをみんなで幸せに変えていこうとする共感と連帯の絆に結ばれた学級集団づくりをめざす。 ○今自分が何をしなければならないかをしっかりと見つめ，常に目的意識をもった生き方ができる生徒の育成をめざす。 ○さまざまな学級活動を通して，人間の在り方・生き方を日々問い，人間としてどのように生きていかなければならないかを求め続けようとする態度を育てる。
各教科，特別活動における道徳教育の概要	○各教科の学習を通して，さまざまな知識を獲得しながら，自分自身は人間としてどのように生きていこうとするのか，また，自分は人間としてどのように生きていかなければならないのか，自分の生き方を問いただしていく態度を生徒一人一人の中に確立させたい。 ○各教科，特別活動の営みを通して，生徒一人一人の中に自分が尊ければ，他の人も尊いという人権尊重の意識を確実に育てると共に，仲間の悲しみを自らの悲しみととらえ，仲間の喜びを自らの喜びととらえる連帯の心を育てていきたい。
生徒指導にかかわる道徳教育の観点	○朝の挨拶から帰りの挨拶，朝の学活から帰りの学活，生徒とのすべてのかかわりを通して生徒と教師，また生徒相互の絶対的な信頼関係を築くために，自分自身にできる最大限の努力を日々重ねていきたい。 ○言い聞かせやお説教では，人の生き方はなかなか変わらない。生き方は生き方によって変わる，生きざまは生きざまによって変わる。この真実を私自身の胸に刻み，私自身の生き方を日々問いただしながら，私自身の人間らしい生き方を求め続け，生徒一人一人に思いや願いを日々語り続けていきたい。
学級生活における豊かな体験の計画	○2学期に実施される修学旅行を生徒一人一人のかけがえのない思い出とするための取り組みを充実させていく。特に，広島市平和記念公園の見学を意義深いものとするために，道徳授業「ヒロシマの歌」の学習をより感動的なものとしたい。 ○校内陸上大会や板中祭等の学校行事をより立派なものとするために，学級旗を作成し，一つ一つの行事を通して共感と連帯の絆をより深めていきたい。
学級における教育環境の整備計画	○学級目標や道徳の授業（詩『峠』の学習）を土台にすえた学級旗を生徒全員の考えの中から作成し，その学級旗を1年間学級に掲げ，生徒一人一人がお互いの存在を励まし支え合いながら，一日一日を頑張っていく糧としていきたい。 ○班活動を通して，一人一人が班員一人一人，学級全体の向上を願う。みんなでよくなる競争，すなわち，競争の原理と連帯の原理を統一していく学級集団づくりに努める。
基本的な生活習慣に関する指導計画	○生活ノートを通して，一日の自分の暮らしを見つめていく。「一日の終わりに感謝と反省」を合言葉に，自分の生活をじっくりと考え，明日への活力となるような生活ノートの営みを継続させていきたい。 ○時間に厳しいとは，自分の生き方に厳しいことであることを深く認識させ，一つ一つの課題を的確に確実にやり抜いていく心と，時間を大切にする心を育てる。
他の学級・学年・学校・及び家庭，地域社会との連携にかかわる内容と報告	○学年通信「ねんりん」を通して，学年・学級における教育活動の充実と家庭との連携を深める。 ○学級通信『美しさを求めて』を通して，道徳授業における生徒一人一人の思いや願いを紹介し，人間の生き方を求める教育への理解を深めると共に家庭と学校との信頼の絆をより確かなものとしていきたい。 ○参観授業への積極的な参加と，道徳授業の記録や道徳授業に取り組む生徒の姿をビデオにおさめ，各家庭，家族全体で人間の生き方を求める教育のあり方を考える機会をつくる。

2年C組　道徳指導計画

観　　点	計　画　の　内　容
学級における生徒の道徳性の実態	○明朗，純真，素直である。 ○言動に幼いものがあり，時に人を傷つけることがある。時，場所を考えた言動が不十分。 ○奉仕活動，係活動などへの主体的，自主的取り組みにかける点がある。 ○弱い立場にある生徒に対するフォローが不十分である。
学級における道徳教育の基本方針	○“助け合い支え合う　心は一つ”を学級目標に掲げ，互いに他を思いやり協力し高め合うことのできるクラスを作り上げたい。 ○具体的行動の中で考えさせ，さらに書くことにより内省の機会を持つと共に級友の考えを知り，人の痛みを分かろうとする姿勢を育てる。 ○基本的生活習慣の確立をめざす。
各教科，特別活動における道徳教育の概要	○特別活動を学級目標の実践の場ととらえ，温かい人間関係を築き上げる。 ○部活動における頑張りや人間関係を大切にし，学年通信などを通して，全体の経験とする。 ○学習面における遅進児の指導を温かく見守れるクラスでありたい。 ○話し合い活動の活発化を図る。
生徒指導にかかわる道徳教育の観点	○生徒指導を教師の教育姿勢（道徳性）の発現の場と考え生徒と共にあり，考える姿勢をもちたい。生徒との交流，保護者との連携を大切にしていく。 ○足を運ぶこと，書くこと書かせること，話すこと話させること。 【あゆみ－生徒の書いた分量以上の返事，学年通信，家庭訪問－早退時・欠席時，自由作文，早朝の学級，清掃，給食】
学級生活における豊かな体験の計画	○各種学年行事，学級行事を通じて目標の達成を図る。 【陸上競技大会，球技大会，遠足，学級対抗のレクレーション，など】 ○修学旅行の計画，実践，反省を通して目標の達成を図ると共に，思い出に残る行事としたい。 ○行事計画にあたって，弱い立場にある生徒に配慮できるクラスでありたい。
学級における教育環境の整備計画	○与えられた環境でなく生徒自ら作り出す学級環境－係活動の重視 ○“チリのない教室” ○掲示板の計画的効果的活用－自由作文（一ヶ月交代），学年通信，行事計画など。 ○一年をかけて作り上げる学級旗と，その掲示。　花のある教室。
基本的な生活習慣に関する指導計画	○人として当然しなければならないことの習慣化を図る。時と場所に応じた言動。　・服装を整える。　・時間の厳守－遅刻 ・挨拶の励行　・忘れものをなくす。 ○自分の生き方にかかわる問題であるという自覚を持たせたい。
他の学級・学年・学校・及び家庭，地域社会との連携にかかわる内容と報告	○学年通信によって教師間の共通理解をはかり，また生徒相互の感性や考えの共通の土壌としたい。同時に家庭に対しては我々の考えを知ってもらうと共に，学校にある子供たちの考えや行動を伝え，共に歩むための場としていきたい。 ○同和教育，道徳教育について学校での取り組みを学年通信によって伝える。 ○ＰＴＡに学級理事の制度ができたことにより，学級の問題を共に考える場としたい。 ○家庭訪問の年間を通じての実施，父兄からの便りの紹介など。 ○学年主任間での話し合いの場を持つこと。

２年Ｄ組　道徳指導計画

観　　点	計　画　の　内　容
学級における生徒の道徳性の実態	○明朗活発な生徒が多いが，反面相手の立場や気持ちを考えない自己中心的な言動もみられる。 ○清掃や当番活動等，自主的に一生懸命取り組もうとする者もいるが，言わなければサボりがちな生徒も多い。
学級における道徳教育の基本方針	○お互いに協力し合い，助け合える学級を作る。 ○相手の気持ちを思いやり，他人の気持ちを考えた言動をとることのできる生徒を育成する。
各教科，特別活動における道徳教育の概要	○各教科や特別活動の特性を生かしながら意欲的に取り組む姿勢と，協力したり励まし合ったりしながら共に伸びていこうという気持ちを育てる。
生徒指導にかかわる道徳教育の観点	○生徒一人一人のふれ合いを大切にし，温かい人間関係をつくる。
学級生活における豊かな体験の計画	○校内行事を通して，クラスの一員としての自覚を高め，団結して取り組む。 ○２学期の修学旅行を充実した思い出多いものとなるよう計画し，実践する。
学級における教育環境の整備計画	○生徒作品を掲示し，お互いの良いところを認め合う。 ○花のある明るい教室づくり。 ○生徒が落ち着いて授業に取り組めるよう，教室の環境整備を図ると共に，公共物を大切にする態度を育てる。
基本的な生活習慣に関する指導計画	○朝夕の挨拶，授業後の挨拶がきちんとできるようにする。 ○時間の厳守。 ○提出物を忘れず提出する。
他の学級・学年・学校・及び家庭，地域社会との連携にかかわる内容と報告	○教師間の連絡を密にし，子供を多面的にとらえる。 ○学年通信を通して，学年・学級と家庭とのつながりを深める。 ○家庭との連携を図り，必要に応じて連絡を取り合ったり，家庭訪問を行なったりする。

２年Ｅ組　道徳指導計画

観　　点	計　画　の　内　容
学級における生徒の道徳性の実態	○個性の強い生徒が多いが，まだ，その個性を互いに認め合っておらず，全体としての協力や，連帯感のある集団行動がとれにくい。 ○自分という人間をしっかり見つめられておらず，心の中では正しいと思っていることが，そのまま行動に出にくく，その場の雰囲気に流されやすい生徒が多い。
学級における道徳教育の基本方針	○学級目標に「人として」を掲げ，３７人の一人ひとりが人間らしく生きると何なのかを求め，人間として自分を大切にすると同時に，他の人を大切に守り抜いていくことを学び続けたい。人間を大切にするという視点から，すべての生活の物の見方，考え方，行動の仕方を考え，できることから実践に移していきたい。
各教科，特別活動における道徳教育の概要	○各教科の学習を通して，本当の人間の人間らしい生き方とは何なのかを求める態度を身につけ，知識を獲得するとともに豊かな感性を身につけさせたい ○学校行事等を通して，責任を果たす態度や他の人と連帯していくとともに，自分自身を精一杯生かしていく態度を養っていきたい。
生徒指導にかかわる道徳教育の観点	○あらゆる機会を通して，生徒と教師，また，生徒相互の心のふれあいを大切にし，絶対的な信頼関係が築かれるよう努力していきたい。 ○私自身が誠実な心と行動に裏付けられた生き方をしていきたい。 ○生徒の目に見えることより，目に見えない心のつぶやきが聞こえるよう努力していきたい。
学級生活における豊かな体験の計画	○２学期に行なわれる修学旅行が，一生忘れられない思い出となるよう取り組を充実させていきたい。特に，広島市平和記念公園の見学を意義深いものとするために，「ヒロシマの歌」の学習をより感動的なものとしたい。 ○学校行事等を通して活動のエネルギーと団結力を深めていきたい。
学級における教育環境の整備計画	○生徒一人ひとりを勇気づけ，励まし続けるような学級目標や，学級目標に基づいた学級旗を作成する。　○花のある ○明るい歌声と明るい笑いにあふれ，また，自分の考えが何でも言える学級づくりをしたい。
基本的な生活習慣に関する指導計画	○生活ノートや作文を通して，自分自身を振り返るとともに，今日の自分より明日の自分がよりすばらしい自分となるよう，語り続けたい。 ○言葉を大切にし，人間愛や人間尊重の精神が心の底に流れた言葉が語れるようにしたい。 ○「今」を大切に生き抜く態度を育てたい。
他の学級・学年・学校・及び家庭，地域社会との連携にかかわる内容と報告	○学年通信を通して，学年，学級における教育活動の充実と，家庭との連携を深める。 ○学級通信を通して，道徳授業における生徒一人ひとりの思いや願いを紹介し人間の生き方を求める教育への理解を深めるとともに，家庭と学校との信頼関係をさらに深めていきたい。

（３）学級目標と学級旗

（１）学級旗

学級の一つのシンボルとして学級旗をつくろうと思う。運動会や遠足、学級対抗の行事　の時などに旗を持って集いたいと思う。学級の目標や願いや思いを旗に託すことができ　れば申し分ない。しかし、なかなか急には難しい。難しく考えていたらできない。とに　かく作ってみよう。初めは旗という形だけでいい。その旗を掲げてクラス一つになって　行事に取り組んでいくとき、いわばその旗に心が入っていくのだろうと思う。そういう　意味では一年をかけてクラスの旗を作ることになる。一年後に自分たちの宝物となるよ　うな旗作り。それはこれから一年間の仲間作りであり、クラス作りであり、自分たちの　成長でもある。とりあえず、５月末までには第一歩として、形としての学級旗を完成さ　せたい。

（学年通信　４月２０日　第１０号）

学級旗を作るに当たっての呼び掛けであり、私たちのねらいもそのまま含まれている。これより学級単位で旗作りが始められた。学級目標との関係、生徒の意見を集めながらの製作は予想よりも時間がかかった。全学級完成したのは５月末で、一ヶ月を要したことになる。放課後遅くまで全員が残って作成に取り組む姿がみられた。

完成したときの生徒の「あゆみ」

○　今日旗ができました。もう、できたときは「２年Ｄ組のシンボルマークだ！　ええで！　やるで！がんばるで！」と思うととってもうれしくなりました。旗を作っているときは「２年Ｄ組の唯一の旗をつくろう。そのためにもきれいに心を込めて作らなければ…」と思っていました。明日、持っていくかわからなかったので今日のうちに急いで作り上げました。私にとって２年Ｄ組の唯一の最高の旗ができたと思います。

○　今日旗を作りました。Ｄ組も作っていたので負けないようにと一生懸命作りました。Ｄ組のを見にいったりしながら作りました。白地の方ははったやつが見えて少しきたならしかったです。でも、やっぱり自分たちで旗を作るのは初めてなのでできたときはうれしかったです。

完成した旗はいつもは教室の後に掲示されている。遠足のとき、また、体育館で学年授業公開のときには持出し士気の高揚につなげていこうとした。

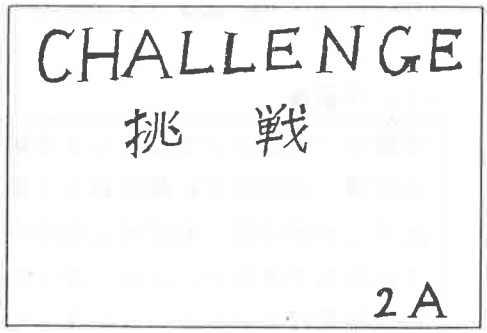
各クラスの委員長が旗の意味と学級紹介、学級の願いをしるしたものが次のページである。（学年通信　６月１日　第４４号に掲載）

＊２Ａ

○　学級目標；ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ－
　　－挑戦

○　学級紹介；みんな明るく元気があって最高にいい学級

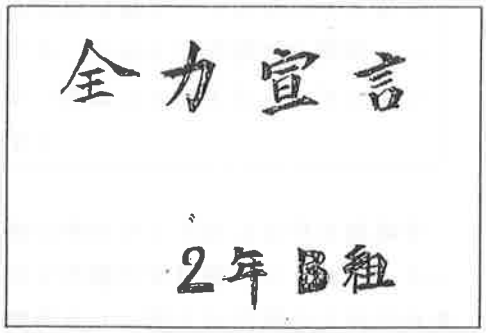
○　旗にこめた願い；何事にもＣＨＡＬ－ＬＥＮＧＥ
　　（白地に赤の字）



＊２Ｂ

○　学級目標；美しさを求めていきる人生を。みんなが人の心がわかるように。一人の仲間の悲しみをみんなで幸せに変えていく。

○　学級紹介；ものすごく明るいクラス。一生懸命頑張るクラス。一人一人個性があるクラス。

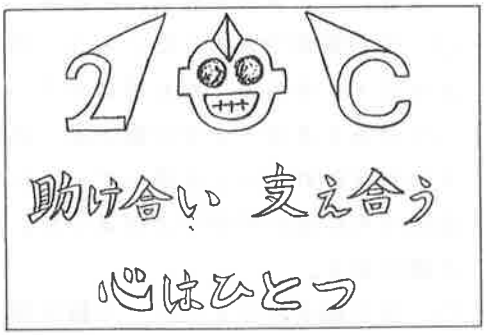


○　旗にこめた願い；みんなが何にでも全力で取り組むように。みんな力を合わせて頑張ることができるように。　（赤地に白の字）

＊２Ｃ

○　学級目標；助け合い、支えあう心は一つ。

○　学級紹介；２Ｃの男子はとても元気です。元気すぎて保健室の前でケガをするという子までもいました。女子はとても明るいです。男子も明るいけれど、どちらかというとうるさいです。男子と女子は仲良くやっています。



○　旗にこめた願い；助け合ったり、支えあったりして、何をするときでもみんな心を一つにして頑張るぞ！ウルトラマンは意味が無いのでは？２Ｃは正義の味方。　（地は紺　字、絵はカラフル））

＊２Ｄ

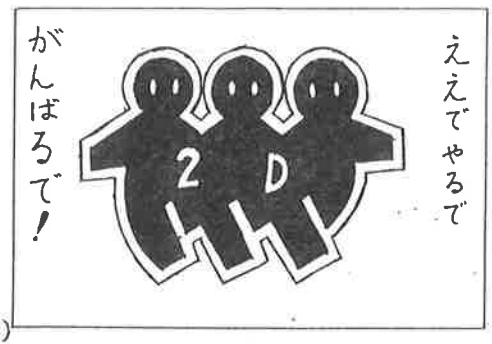
○　学級目標；ええで！やるで！やったるで！

○　学級紹介；僕達のクラスはほかのクラスに比べて明るく、あまりまじめでは

やるときはやるクラスです。中間テストもげとで、校内陸上大会もげとだけど、愛敬のあるクラスです。

○　旗にこめた願い；みんなが協力して進んでいく。みんなが手を取り合っていいクラスにしたい。

（地は青、字、絵は白、黄など）



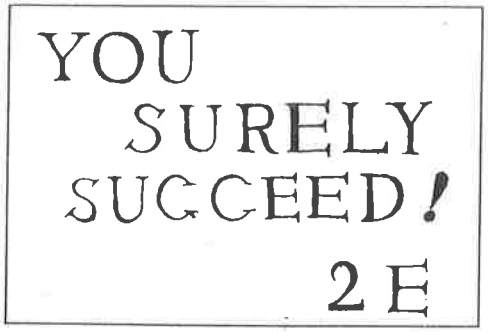
＊２Ｅ

○　学級目標；人として

○　学級紹介；これといって紹介することはありません。男女の仲が良く明るいクラスということだけです。

○　旗にこめた願い；あなたはきっと成功する。自信を持って進もう。

（地は青、字は白）



一年間終えて学級旗に限っていえば活用の場面が少なかったというか、やや「仏作って魂いれず」という反省がある。ほとんど教室に掲示するだけに留まった。しかし、そこに書かれた学級目標については合言葉のように生徒たちの口からでていたという点については学級旗を作った苦労の一つの成果であるかも知れない。

活用が少なかった一つの理由に「教師主導」であったことがあげられるだろう。時期的にも早すぎたため学級の士気の高揚の兆しがみられないうちに、製作にかかり－製作の中から士気を高めるという狙いではあったが－生徒が受け身にならざるを得ない点があった。どちらが時期的に先になるべきか、これはクラスの実情によって異なる。今後如何に活用するか、日常生活の中に位置ずけるか、が課題として残されたような気がする。

（２）学級目標

各クラスの学級目標なり担任としての方針については既に述べてきたとおりである。学級目標とは生徒自身の生活の指針であり、同時に担任の狙いでもある。抽象的で耳慣れた言葉であっても不思議にクラスの雰囲気を表し担任の個性を表していることが多い。

Ａ組の担任の佐野先生は（Ａ組の生徒は）「ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ］を目標にした。朝、廊下で大きな声で「おはよう」と声をかけているのは先生自身である。生徒と一緒になってトイレの清掃に汗だくになっているのを毎日のように目にする。定期

テストがあれば燃え、学級対抗の行事があれば生徒と一緒になって目を輝かしている。定期テストの結果も学級対抗行事の結果も良い。まさに「ＣＨＡＬＬＥＮＧＥ」そのもである。一方においては長欠児にたいして細かい配慮もある。私たち２年教師集団のムードメーカーとしての役割も果たしてくれている。

Ｂ組は森口先生が担任している。生徒とのふれあい、出会いを大切にしキメの細かい指導がなされスタートの時点で真壁仁の「峠」を時間をかけて生徒とともに学び、一つの行事を生活の中の「峠」ととらえ、「峠は決定をしいるところである」という言葉から生徒の意識の変革を目指している。学級旗のほかに「峠」の旗を作り掲示しているし、帰りの学活が一番長いのも先生で毎日の細かい指導が伺われる。ノッシノッシと踏み締めるように教室に行く先生の姿に「全力宣言」の学級目標が納得できる。

Ｄ組は活気があり個性の強いクラスであった。それだけに一見バラバラに見えることもある。西野先生－１１月１１日までは桜間先生－は大声をだすことなくじっくりと生徒の懐に入っていく。「ええで！やるで！やったるで！」の合言葉が活かされていることが証明されたのは全クラスに公開の同和問題学習のときであった。「いざというときはやる」という委員長の言葉そのままに見事な授業を展開した。ここにも生徒の中に浸透した学級目標をみることができる。

Ｅ組の指針は「人として」である。人として、の次にどのような文章が続いていくのか？投げ出し、生徒一人一人によって次を埋めて欲しい、そんな阿部先生の思いが伝わる。生徒は若い先生のもと伸び伸びと毎日をおくり屈託がない。具体化しにくい言葉の中には多くのことを含む幅の広さや深さがある。その時々において子供たちに自分の思い、周りの人の思いや行動を考えさせる基準の一つとして位置付けられておられる。

日頃感じていることの一部を失礼を顧みずに簡単に書かせてもらった。先生たちの思いとは異なることがあるかもしれないし全てを伝えるものではない。各先生たちの考えはここにスケッチできるようなものではない。それぞれにいろいろな方策を講じている。言いたいのは常にどこかに学級の目標なり願いが表れてくるということである。ともすれば年度当初に設定して後はそのままという実態が多いなかで折に触れ原点にかえって話し、取り組むことが多かったと思うのはひいきめではない。生徒も同じような気持ちで生活に、行事に取り組んでいくことが多くなったように思う。例えば、次のあゆみは学年全体で取り組む同和問題学習を終えた後のＢ組の生徒のものである。

『今日仲間のみんなで渋染一揆の勉強をしました。立派な資料にであうことができ、その上みんなと学んでいく中で、いろいろな人間としての生き方がわかってきたような気がしました。初めての体験でと手も緊張したけれど３回も自分で思っていることをみんなの前で言えたことがとてもうれしかったです。私の目の前には高く高

くそびえている峠に自分が立つまでにどんな苦しいことがあっても頑張るぞという気持ちの中で発表することができたのだと思いました。』

（４）　一日の始まり

＊　朝８：００に教室に行く。廊下を歩いていると後から大きな元気な声で「おはよう」と声をかけているのが耳に入った。気持ちのいい挨拶にだれかなと振り返ると佐野先生であった。

＊　本校の始業は８：１５である。そこから朝の自習が始まり同時に私たちの職員朝会が始まる。学年当初につぎの二つの目標を確認した。

○　生徒の登校を８：１０までとし、余裕を持って一日のスタートを切ることがるようにする。指導目標の時間として８：１０を設定したわけである。

○　私たちは８：００に教室に入るようにする。

＊　できることなら生徒よりも早く教室に入り登校してくる生徒の声をかけ、一日一日の新しい出会いを大切にしたい、同時に全員に声をかけることによりその日の生徒の様子を知るとともにスタートの気持ちを大事にしたいと思う。生徒に声をかけることは、生徒に対する効果はもちろんだが自分自身に対する効果の方がより多い。昨日よりもよりよい今日を作り上げたいとの思いを込めての挨拶にしていきたい。　声をかけることによって自分の思いを新たにするのだ。

＊　しかし、現実に担任５人が一年を通して実践するには無理がある。不可能なベストより実行可能なベターとして「８：００教室」を確認した。８：００の教室は多くて約４分の１の登校である。その後の１０分間にのこりの生徒が登校してくる。朝教室に飛び込んでくる生徒の表情は様々である。いつも通りの顔もあれば妙に沈んだ顔もある。普段は登校の早い生徒が遅刻まぎわになって飛び込んでくることもある。様子が気になる生徒には声をかけてみる。

教室に入れば登校してくる生徒の様子をみながら「あゆみ」を提出させ返事を書き始めることが多い。その間にもいろいろな話をしてみることだ。私たちは担任といいつつも、日によっては朝と昼と帰りの学活と３回しか生徒と顔を合わせないこともある。日に一度は全ての子供たちに声を掛けたいと思う私たちにとってこの始業までの時間は貴重であった。

＊　しかしながら、この８：００入室は私たちにとってもかなり苦しいことであった。家庭の事情によって遅れることもあれば緊急の用が入ることもある。互いにフォローし声を掛けつつこの目標に向かって頑張ってきたというのが実情であった。一年を通して実行はできなかったがこの目標を常に頭に置き自分自身を励ましてきた。

「今日で２年生になって１週間と少し過ぎました。だいぶクラスの人とも話ができるようになりました。この一週間でうれしかったことは先生が朝教室にいて

「おはよう」と言ってくれたことです。」

これはある女子の「あゆみ」である。声を掛けることの大切さを改めて知らされる思いがする。

（５）あ　ゆ　み

「あゆみ」あるいは「生活記録」は県下のほとんどの学校で採用されているものである。本校においても全学年で活用され、改めてここで取り上げるようなものではないかも知れないが、毎日の私たちの教育活動の中での大きな柱でもあり、基本的な考え方についてまとめておきたい。

【担任と個々の生徒の私信である】

あるいは交換日記と言い替えてもいい。字数にすれば１００次程度の記録であるが生徒個人のいろいろな思いが語られる。何を書いてもよい。内容については全てを受入れ、受け入れることによって必要な場合は指導が始まっていく。字の間違いを訂正するくらいのことは必要であろうが、内容については評価の対象とすべきものでない。また、叱責の材料にしてはならない。生徒が自由に、思ったことを書く回数が多くなればなるほど、それだけで存在価値がある。

生徒は－私たちも同じことだが－なかなか本音を書くものではない。家庭のことにせよ、友達のことにせよ、本当の気持ちは書いてくることは少ない。しかしそれでいいのだと思う。生徒が書いたことにたいして、たとえふざけ半分だとわかっても精一杯の返事をしていくことによって、個々の生徒との話し合う場が確保されていることに互いが確信を持てるようになることが大切である。「あゆみ」は私たちと個々の生徒を結ぶ大きなパイプである。互いの思いを語り合う場である。

このような「あゆみ」の位置付けから次のような具体的な方向がでてくる。

(1)　全員提出させること。

これはとくに最初のうちに徹底する。日記というものは三日坊主の代表的なものである。書くという作業は慣れるまでおっくうなものだ。慣れるまで、書かなければ落ち着かないという気持ちになるまでは強い指導が必要なことがある。返事を丁寧に、量も多く書けば生徒は必ず提出するようになる、とよくいわれる。しかし残念ながら基盤ができるまではそうでないことも多い。とくに男子についてはともすれば手を抜きがちになる。提出させていく中から「あゆみ」の意味を掴ませていくことである。

(2)　生徒の書いた分量以上の返事を書くことを原則とする。

このことは言うは易く実行は難しい。実際授業の多い日や行事のとき、他のさし迫った校務があるときなどは不可能に思える。身勝手なことを言えば気分の乗らない日もある。しかし、このことは生徒に提出させる以上私たちにとっては常に大原則でなければならない。次の日にはみ出してもよい。紙を貼り足してもよい。

とにかくまず私たちが書くというところから始まる。

書く欄がなく紙を貼り足したため一年の終わりにはもとの倍の厚さになる子が何名かは出る。できれば全員がそうなるようにしたいものだ。

返事の書けない日があり前もってそのことがわかっているときがある。そんな時は朝生徒に返事の書けないことを言っておくことは初めのうちは大切である。

森口、阿部先生は通常の「あゆみ」以外に市販のノートを「生活記録」として持たせ毎日提出させている。書く分量は生徒が自由にできるわけで多い日は3ページに渡って書いてくる生徒もいるという。どの先生も空き時間に第一にかかる仕事は「あゆみ」への返事である。

○　前から思っていたけれど、やっぱり「あゆみ」は退屈なときとか勉強の合間とかに書くとすごくほのぼのとする。誰かさんと誰かさんみたいに遊ぶまではいかないけれど「あゆみ」をみると安心できる。

○　私は前は余分な紙を貼付るくらい書かなかったのに何だか急に「あゆみ」を書くのがすごく楽しくなってきた。今までの「あゆみ」は2行書けばいい方で（今日部活がありました。しんだかったです。）のワンパターンでした。でも、この頃、やっと先生にたいして本音が言えるというか、あれも書きたい、これも書きたいで一杯です。生活記録のつもりで普段自分の思っていること気がついたことなどを書こうと思います。先生の返事をひそかに楽しみにしている毎日デス。

(3)　内容については口外しないこと

これも原則である。内容によっては関係の先生や保護者生徒に連絡をとる場合が当然でてくる。口外しないという原則と内容の重要性を秤にかけて判断をしていくことになる。その場合であっても扱いは慎重にすることは当然で、普通の場合であれば本人に話しておくことが望ましいし、そうすることによってその後の内容が変わってくるものではない。理由を理解すれば信頼関係は増すことはあっても崩れることはない。

学年通信との関連については一学期当初において「学年通信」のねらいの説明において「あゆみ」の扱いについて触れ生徒の理解を得るようにした。

学年通信「ねんりん」の1号に

『先生とみんな一人一人を結ぶものとして「あゆみ」があります。ひらたく言えば交換日記のようなものと考えています。だから、何を書いてもいいし、書かなければ困るのですが時にこの「ねんりん」にもみんなの考え、感じ方、思いとして載せていきたいと思っています。もちろん、個人の秘密は守るし人を傷つける恐れのあるような内容は載せません。「あゆみ」は安心して書いてください。』

と書き、担任の先生からも説明を加えた。実際にはほとんどの生徒が自分の「あ

ゆみ」が載れば喜ぶことが多いが内容によっては本人の承諾を得ることも多い。また初めから「学年通信には載せないでください。」といったものや個人的な問題については掲載はしない。担任として配慮するのはこうした「あゆみ」であることはもちろんであって、放課後詳しい話しを聞くことも多い。

(4)　内容についての評価をしない。

これについては既に述べた。投函した手紙が赤字で添削されて返ってくるようなものであろう。教育の一貫であるという立場から評価を考えることもあるが、せめて「あゆみ」は自由に、好きなように書かせたいと思う。一つの息抜きの場でよい。最近の特徴としてよくイラストや漫画をかいてくる。

毎日一行しか書けないもの、ワンパターンの文章になるものも男子には多い。それはそれでいいのではないか。ただ返事だけは手を抜かずに書きつづけていく。そうしておれば書かなければならないときが来れば書き出すであろう。気長く待っていきたいと思う。

(5)　本音の語ることのできる「あゆみ」

生徒は本音はなかなか書かないものである。それでいいのだと思う。といって、建前ばかりでは意味が少なくなる。自分の本音を見据えそれを超えようとするところに苦しみもあり喜びもあると思うから、人間としての値打ちがあると思うから、本音に近いものを引き出せるような手立てが必要である。本音ばかりでは進歩が無く、建前ばかりでは息苦しい。日常の活動はもちろんであるが「あゆみ」に限れば、私たちがときには生徒と同じ視線にたってその思いをそのまま受け止めていくことである。自分に正直にわからないことはわからないといい、疑問はそのまま生徒にぶつけていく。そんな中からそろそろと生徒は本音を見せてくれるように思う。ともに考えていく姿勢こそが一番必要である。

話し言葉や方言で返事を書く先生が多い。これもいろいろに議論されるところであろうが、その方が気持ちを伝えやすいならそれでいいのだと考えている。これはその先生個人のキャラクターに負うところも多く一概にはいえない。「私信」であるという立場から考えれば大きな問題ではないだろう。方言での返事は生徒には評判のいいことが多い。

以上が基本的な構えであるが、以下いくつか「あゆみ」に関連してつけ加えたい。

＊　富加見先生は同和担当教員として担任を離れて２年になる。柔道部の顧問をされているがあることから部員に毎日日記の提出を義務付けた。もちろん柔道に指導の一貫としてのスタートである。赤ペンでびっしりと返事をかいている。こんなことを話された。「担任を離れて、こうして柔道部の日記を提出させるようになって初めて「あゆみ」の意味がわかった。担任しているときはとにかく返事さえ書けばいいと思い２，３行でさっさとすませていたがそれではいかんということがわかりました。」ということである。

＊　生徒は親に「あゆみ」を見せないことが多い。しかしそこはいろいろ工夫をして覗いているようである。

「先生、学年通信はほんまにええ。子供のことがよくわかるし。ほんでも「あゆみ」のほうがもっとええんでよ。時々子の「あゆみ」をみせてもらうけんど、担任の先生がいろいろ書いてくれてあることで自分の子の学校でのことがよくわかるし、子供に尋ねたりすることもあるし。あれはほんまにええ。先生も大変と思うけど、返事たのみます。」というＤ組の父兄の話しである。

返事を毎日続けるコツは、まとめて返事を書こうとせず５分でも時間があれが一人でいいから書いていくことである。また、必ず返事は書くと生徒に宣言しておくのもいい。「あゆみ」が続かないとすればその「責任」は全て私たちにある。

（６）書くこと．話すこと

（１）書くこと

私達の思いや考えは書くか話す以外に他人に伝える術はない。とくに書くことには大きな意味がある。私達は書くことによって初めて自分の考えをまとめ、整理し、発展させることができる。頭の中で考えているだけでは進歩も発展もなく堂々めぐりをしていることが多い。

生徒は書くことが苦手である。私達も書くことには抵抗を感じることが多い。「後に残る」事も大きな理由であるし、おっくうである。しかし私達が自分の考えを深め、他の考えを加味して思考を深めていくには書くことしかない。

この一年、生徒に書くことを進め、強制もした。

一つは既に述べた「あゆみ」であり、もう一つが作文指導である。

＊　自由作文

私達は羽浦中学校において実践されている「自由作文」を取り入れた。すなわち、月一回生徒に作文を提出させる。字数は５２０字である。（これはとくに意味はなく国語の入試２６０字の２倍にしただけのものである。）

作文のテーマは指定することもあればまったく自由に書かせることもある。すべて散文とし、「詩」「短歌」などは対象外とした。（１回だけ修学旅行の後で短歌

を３首作らせた。）

提出された作文は原則として全員のもが教室に掲示し、一回につき各クラスから一名、計５名分を学年通信に掲載していくようにする。それによって級友の考えや一つの技法も学ぶことができるし励みにもなっていく。短歌は全員のものを学年通信に載せた。

テーマは生徒に任せることが多かったが月別に見てみると次のようになる。テーマ設定は学年全体で決めることもあれば、全体としては自由でもクラスで設定することもある。「」内は全体としては自由にしたが、あるクラスにおいて与えられたテーマである。

４月…２年生になって

５月…自由

６月…自由、「今私は…」「私のクラス」

７月…自由

９月…自由．板中祭に参加して（この月は自由作文が２回になる）

１０月…修学旅行の思いで．修学旅行についての短歌（２回）

１１月…自由、「もし私が男（女）だったら」

１２月…自由、「今年一年」「私の育児方針」

１月…年頭所感

２月…自由．同和問題学習を終えて（２回）

３月…２年この一年を振り返って

＊　これ以外に５回の同和問題学習については事前に資料を読んでの感想、授業後の自分の思いや変化について書かせた。また映画を見た感想も書かせ、必ず学級において掲示するかまたは学活において朗読するようにした。森口先生は同和問題学習についてさらに細かく作文を通しての指導をされた。

＊　結局この一年間で生徒は、長期休業中の読書感想文も含めれば学年全体としては３０回を超す作文を書いたことになる。書かなければならないということで生徒は一種の覚悟を決めたようであり、後になるほど書くことについての抵抗は少なくなり掲示された作文を熱心に読んでいる姿をよく見かけるようになる。

文を書く技量というものはそう簡単に上がるものではない。ともかく書かせることが大切である。阿部先生は生徒が書いた自由作文をすべて月ごとにまとめ綴じている。ずいぶん分厚く多くなってきている。書かれたものを何度も何度も繰返し読んでいる先生がいる。

書かせることであるというのが私達の共通理解であった。書いた文章には必ずその人が表われるものである。そこに生徒をしるきっかけがあり「指導」の糸口を見出すこともできる。とくにテーマを決めて書いたときよりも自由に書かせた方が、その時の生徒の直面する問題や関心が表われることが多く参考になることが多かっ

た。

また、テーマを与えるときには私達が何をねらいとしているかは自分なりに明確にしておく必要がある。例えば「私の育児方針」について書かせると生徒の書く文は今の両親の家庭教育について（つまりは両親への批評となる。）の感想となって表われて来る。これがもし「お父さん、お母さんについて書きなさい」ではとうてい書けないであろう事を、自分の問題として、置き換えて書くことができる。テーマを決めるときは担任として何がねらいであるかを明確にする必要があるというのはそのような意味である。いずれにせよ書かせてそれで終わりではなく後の指導に活かし、また生徒に返していくものでなければならない。

以下、いくつか例を挙げたい。

―――――― 汽車に乗って ――――――　　２Ｅ　金　岡　宏　美

従兄弟と映画を見に行くことになって汽車に乗りました。座っていると前の椅子にはおばあさんが座っていました。そして駅で止まったとき、一人の若い男の人が思いっきり股を広げておばあさんのことも考えずに狭い椅子に広々と座っていました。それが我慢できなくなっておばあさんは立ちました。汽車が少しゆれるとこけそうになり私は見ていられなくなりました。

「おばあさんどうぞ」

と何度も声をかけようと思ったけれど、今一つ勇気がでずにいました。そしたら若い女の人が、

「どうぞ」

といいました。そしたらおばあさんは

「次の駅でおりるけん」

といいました。でも悲しそうだったおばあさんの顔がにこやかになったとき、私も言ったら良かったと思いました。そして、おばあさんがおりる直前高校生ぐらいの女の人３人がジュースの缶を下に置いているのを見て

「こんな処に捨てたらあかん。ほなけん、すぐに汽車も街もきたなくなるんじゃ」

と言って注意していました。

周りの人たちは初めザワザワしていたけれどうなずいている人もいました。本当にためになる汽車の一時でした。

――自分を大きくしてくれた修学旅行――――　２Ｄ　水　口　和　美

修学旅行の日が来るの遅いようで早かった。心の準備ができてないまま修学旅行の日が来たと思う。

私はこの５日間集団の中で生活してきて初めて感じたことがたくさんあるように思う。一番強く感じたのは人数が多いほど規則が厳しくなることだ。もう一つは当

りまえのようですごく忘れがちなこと。それは自分が集団の中の一人であることだ。一人一人が集まって集団を作っていてそれを何人かの先生で動かしているので、先生たちはすごく疲れたと思う。私たちの集合の合図などをするとき先生たちは一回も笛を吹かなかった。これはとてもすごいことだと思う。その分声をからしたかも知れないが…。

この５日間でたくさんの人に出会った。バスガイドさん、通りがかりのちょっとぶつかった人に「すいません」とか言って顔をチラッと見たり、旅館の人、そして今もはっきり覚えているのは別府の地獄めぐりの龍巻地獄で外国人が話しかけてきたのでそれを一生懸命聞こうとしたことと英語で質問したらちゃんと英語で答えが返ってきて「ヤッター外国人に通じた。」と喜んだことを覚えている。修学旅行に行ってまた自分なりに一回り大きくなれたと思う。

―――――― 自由作文 ――――――　　２Ｃ　藤　井　由　美

２年生になってからたくさんの作文をかいてきました。大体一ヶ月に１枚。おおいときは２枚も３枚も書いてきました。中１まではそれほど書いてこなかったので最初は何を書いてよいのか本当に迷いました。でも、２学期くらいになるとだいぶなれてきました。書く内容だってさがせばいくらでもありました。作文を書くことが苦手だった私は内容はあまり変わらないけれど、頭の中で内容などを整頓するのは前より早くできるようになりました。高校を受験するときにも作文を書くといっていたので毎月なにげなくかいていた作文も役に立つときが来るのだなあと思うとうれしくなる。今まで書いてきた作文を振り返ってみるとすごくいろいろと書いてきた。４月は２年生になっての抱負なんかを書きました。夏休みのできごとを書いたものや、自分の苦手なものについて書いたこともありました。その他、部落問題についてもかいてきました。このようにいろいろ書いてきたことは自分のためになったと思います。これからも作文を書く時は今までのことをいかしていい作文が書けるといいなあと思っています。

（２）話すこと

話すことの訓練の場は道徳や学級会活動など多くあるが、その他に全体の前で話す機会をできるだけ多くしなければならない。

一つは学年公開授業（後述）での話合いであり、もう一つが午後の短学活における１分間スピーチである。とりあえずは、ともかくみんなの前で自分の考えや意見を発表することであった。話合いの訓練に入る前の段階といえる。

１分間スピーチは多くの学校や学級で行われているであろうものと変わりはない。短学活の司会や学級の美化などに当たる日直がその日の感想や考えを前に立って話すもので毎日交代していく。

中には全然しゃべることのできないものもいる。そんな場合は特定のものに限って事前に話す内容についてメモを用意しそれを読み上げることも許すことにした。

学級で自分の思いを語り、全体の場ではなしていくことの意味を生徒はつかみつつある。

同和問題学習における全体学習での感想によってもそのことがわかる。

（７）学年行事

（１）学級対抗全員縄飛び大会

１．目的

①　集団行動を通して、協力、自主、創造の精神を養い、これからの学校生活に活かす。

②　縄飛びを通して学級の連帯意識をさらに深める。

２．期日　　平成２年１０月２５日（木）５，６校時
　　１３時３０分運動場集合

３．会場　　板野中学校運動場（雨天時は体育館）

４．開，閉会式

開会式	閉会式
開式の言葉	開式の言葉
大会長挨拶	成績発表
演技上の注意	賞状授与
宣誓	講評
閉式の言葉	閉式の言葉

５．大会規定

日程

①　練習時間　　１３時４５分～１４時２０分

②　休　　憩　　１４時２０分～１４時３０分

③　競技開始　　１４時３０分～１５時１０分

④　閉会式　　１５時１０分

競技

①　Ａ組から順番に行う。

②　各組３回ずつ試技、３回のうち最高回数で勝敗を決める。

服装

①　体育の授業の服装（夏、冬どちらでもよい）

②　ゼッケンをつける。

③　見学者も体操服で見学する。

表彰

①　優勝、準優勝のクラスに賞状が授与される。

６．その他

各学級の体育委員代表２名（男女各１名）は、２３日（火）の放課後２Ｅに集合すること。

【あゆみ】より

・今日、長縄跳びをして、僕はまわす訳でマメが裂けました。ヨーチンを塗ったらカーッと熱くなってピリピリしました。痛かったです。

・今日は長縄飛び大会があった。僕は縄をまわした。何故かみんなが跳んでいるのを、縄をまわしながら見ているとうれしくなりました。

（２）美味しんぼ大会

１．目的

① 仲良く調理すること。

② 仲良く楽しく食べること。

③ 仲良く片付けができること。

２．期日

２月２１日（木）５，６校時。雨天の場合は２２日に延期（このときは２１日に金の５，６の授業をする。）

３．場所　中学校運動場　クラスごとに場所を指定する。

４．日程

１３：２５～１３：３５　開会式、諸注意

１３：３５～１４：４５　調理、試食

１４：４５～１５：２０　後始末　終了後清掃学活

注意；洗いものは　２Ａ，２Ｂ……２Ｆ東手洗い場

２Ｄ，２Ｅ……２Ｆ西手洗い場

２Ｃ……理科室東手洗い場

５．服装　体操服、ウインドブレーカー

６．班編成　１クラス６班（学級で決める。）

７．注意事項

・チリ、ゴミは散らかさない。

・「火の用心」火の始末は厳重にする。

・「一人一役ｏｒ二役」自分の責任は必ず果たす。

・「親しき仲にも礼儀あり」班員は互いに助け合い仲良くする。

・他の班へ行ったり別行動はしない。（先生はよい。）

・食べ物は全て切ったり洗ったりしておくこと。（学校では役か似るだけの段階です。）そのための用具の貸出しはしない。

・一人当りの予算は５００円までとする。各班で処理をする。

・学校で用意するものは、薪、マッチだけなのでそれ以外の必要なものは全て各班で話合いの上用意する。但し、飯ごう使用の希望のある班は１６日までに申し出ること。特別に用意します。

・メニューは自由。但し、カップヌードルなどのインスタント食品はダメ。（参考までに。２１日の給食はカレーです。）

・２月１６日までに計画書を担任の先生まで提出のこと。

【あゆみより】

・今日の、美味しんぼ大会ははっきり言ってムム…というか、思い出になりました。毛度、頭グチャグチャ。パンはまっ黒。ゴミや土が飛んでくるしムチャクチャでした。でも班のみんなが揃っていっしょにできたのが良かったです今日の最高は缶きりを忘れて「とんが」とかいうやつで缶を開けてさくらんぼを食べたことです。みんなで原始人やなーケラケラ笑いながら結局全部食べてしまいました。普段できない体験でした。